学校番号	１１４

令和２年度　地歴科

教科	地歴	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年	１年
類型等	必履修						
使用教科書	世界史Ｂ　（東京書籍）						
副教材等	「最新世界史図説タペストリー」（帝国書院） 合格へのトライ世界史Ｂマスター問題集（山川出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、２年間かけて近代から現代への通史を扱います。（２年生では、１年生の学習事項の続きを学びます。）私達は今、非常に複雑な「社会」で生活しています。その「社会」の基礎となっているのが近現代です。

昨今、世界の各地で起こっている紛争（例、シリア内戦、アフガニスタン紛争など）の原因は、すべて近現代史で読み解くことができます。みなさんは、中学校で歴史は学んでいると思いますが、本授業では、内容が多岐にわたり、人名・国名・事象が無数に登場します。ですから、最初から全て暗記しようと考えないでください。

「世界史」を学習するにあたって大切なことはまず、興味・関心を持つことです。世界史を好きになってください。「歴史」は人間の歩みです。人間が集まった社会の歴史なのです。私達は常に人と人が接する社会に生きています。つまり「歴史」を知ることにより、実生活においても視野の広い人間になることができます。多角的な見方ができるとさらに今が楽しくなることでしょう。皆さんがこの授業に積極的に取り組むことを期待しています。

２　学習の到達目標

近代から現代に至る歴史の大きな枠組みと流れを，理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に関心を持ち、主体的に生きる自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	古代から近世にかけての世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	古代から近世の世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期		・先史の世界		○	○		a:人類の進化とその特徴について，関心を持って学習しようとしている。また、文明の特徴を理解し，人種や民族，語族といった概念に関心を持って学習しようとしている。 b: 人類の進化の過程，農耕・牧畜の開始の意義などを，多角的に考察し，文章にまとめる。 人種や民族といった分類を，偏見なく客観的に判断している。 c:教科書に掲載されている進化図や道具図，洞穴絵画などの図版や写真を適切に活用している。 d:人類の進化，文明の成立，人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査
	オリエントと地中海世界	・古代オリエント世界 ・ギリシア世界 ・ローマ世界	○	○ ○	 ○	 ○ ○	a:西アジア・地中海地域の諸文明の特質と人類の自然環境への適応に関心を高め、メソポタミアとエジプトの灌漑農業を基盤とした古代文明を，関心を持って意欲的に追究しようとしている。 b: 西アジアで古くから文明が栄えた背景に関心を高め，六十進法や暦など，オリエントの古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察し，その結果を適切に表現する。また、アケメネス朝やササン朝の文明が，東西諸民族の交流やその文明に影響を与えたことを考察し，文章にまとめる。 ギリシア・ローマ文明がのちに世界に与えた影響を考察し，ローマの皇帝理念やキリスト教の発展とヨーロッパ世界との繋がり文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているメソポタミア・エジプトの各文明の資料・図版・写真および新約聖書などの諸資料を適切に活用している。また、キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり今日まで受け継がれていることを，思想・文学・日常の慣行や儀礼などの諸資料を活用して考察し，その結果を適切に表現する。 d:西アジア世界の地理的特質，メソポタミアとエジプトを中心としたオリエント世界の展開，イラン人王朝の活動とその文明の特徴を理解し，その基本的な知識を身につけている。 地中海一帯の地理的特質，ギリシア文明の形成とその基盤となったポリス世界の特色，ローマの帝国化の過程やローマ法，皇帝理念，キリスト教などについて把握し，基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

	アジア・アメリカの古代文明	・インドの古典文明 ・東南アジアの諸文明 ・中国の古典文明 ・南北アメリカ文明	○ ○	 ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ 	a:南アジアの多様な自然条件の中で，北インドを中心にインダス文明やアーリヤ人の諸国家が形成され、バラモン教やヴァルナ制度，仏教の特徴について関心を持って学習しようとしている。 モンスーン気候地帯に属している東アジア世界の風土とともに，黄河・長江の新石器文明から殷・周，秦・漢帝国という中華文明形成期の社会や文化の特質を追究しようとしている。 南北アメリカ文明の基層文化とインカ・アステカ両王国の特色を，関心を持って学習しようとしている。 b:ヒンドゥー教とカースト制が南アジア世界に統一性を与える要素となったことや，仏教の伝播の意義を多角的に考察し，文章にまとめる。東南アジアの諸民族が海上交易の拡大に伴って港市国家を形成・発展させていった過程を多角的に考察，判断している。 殷・周時代の文字や秦・漢帝国の皇帝観など，中華文明の重要な要素の出現の意義を考察し，周辺諸国との冊封関係などから，中国を中心とする東アジア世界の骨格が形成されたことを考察し，文章にまとめる。アメリカ先住民の農耕文明の特色と，マヤ文明などの都市文明の独自性を考察し，表などにまとめる c: 教科書に掲載されている東アジアの地勢図や歴史地図，図版を適切に活用している。また、南アジアの宗教に関する様々な資料を活用して，各宗教が及ぼした影響について考察し，その結果を適切に表現する。農耕を中心とする東アジアの社会や生活，文化や思想に関する資料を収集し，考察した結果を適切に表現している。 d: 南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し，基本的知識を身に付ける。 モンスーン気候地帯に属している東アジア世界の風土とともに，黄河・長江の新石器文明から殷・周，秦・漢帝国という中華文明形成期の社会や文化の特質を追究しようとしている。アメリカの文明の特色を，ユーラシアの諸文明と比較して考察し，その結果を適切に表現する。	ワークシート 定期考査

	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成	○	 ○ ○	○ ○	 ○	a:スキタイの影響を受けた匈奴など騎馬遊牧民による国家の活動を，オアシス民の生活と比較しながら学習しようとしている。 ・北方諸民族の王朝と江南に移った漢族の王朝の興亡に関して，その社会経済や文化を比較しながら学習しようとしている。 ・隋唐帝国の成立が遊牧民と漢人の融合，内陸アジアでの突厥の成立を背景にしていることを理解し，その役割を日本など隣接諸国の動向とともに学習しようとしている。 b: 内陸アジア東部に進出した匈奴を代表とする騎馬遊牧民の動向を，その文化や軍事力と関連付けて考察し，文章にまとめる。 ・魏晋南北朝時代の社会経済の変化，唐王朝が名実ともに東アジア文化圏を形成したことを,日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連付けて考察している。 c:教科書に掲載されている内陸アジアの地勢図，オアシスの生活を理解する図版やスキタイのコラム，遊牧民の写真などを適切に活用している。 ・教科書に掲載されている分裂時代の諸王朝の領域図や，魏晋南北朝の文化を示す資料や図版を適切に活用している。 ・唐王朝の社会や文化の国際性を示す資料・図版・写真などを適切に活用し、玄奘の図版や唐三彩などの工芸品の図版から，文化の密接な交流の例を調べている。 d: 内陸アジアの乾燥した風土を理解し，匈奴を代表とする騎馬遊牧民と秦・漢帝国のオアシス都市の覇権をめぐる抗争に関する基本的な知識を身につけている。 ・遊牧民の華北進出と定住化，均田制などの新しい制度のしくみを理解し，中国分裂期の基本的な知識を身につけている。 ・律令制度や文化の理解に加え，唐王朝が東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを把握し，日本や新羅などの国家体制の整備に関する基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

2学期	イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・イスラーム文明の発展	○ ○ ○	○ ○	 ○ ○	 ○	a:ムハンマドの活動やイスラーム教の特質・イスラーム帝国の統治システムについて，関心を持って学習しようとしている。また、ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワークやインドや東南アジア，アフリカのイスラーム化とその地域に与えた影響について，意欲的に学習しようとしている。 b:イスラーム教の成立を西アジアの情勢や社会的な背景と関連付けて考察し，文章にまとめる。イスラーム世界の東方への拡大と西方における変容を，内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連付けて考察し，文章にまとめる。 経済の発展をカイロの繁栄を軸に考察し，文章にまとめる。 インドや東南アジアなど諸地域世界のイスラーム化の影響を，現代の国際政治・社会の視点から考察し，文章にまとめる。 c:教科書に掲載されているイスラーム以前の西アジアの地図やイスラーム世界の領域図，コルドバのモスクなどの写真を適切に活用している。また、インドや東南アジアへのイスラームの伝播を示す地図，アフリカのイスラーム化に関する地図や図版などを適切に活用している。 d:イスラームの特質やその形成過程やカリフによる征服活動や，イスラーム法に基づくアッバース朝の国家体制に関する基本的な知識を身につけている。また、トルコ系民族を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展やムスリムの交易活動やイクター制の内容に関して，基本的な知識を身につけ、理解している。イスラーム文明が古代以来の西アジア文明を基盤としてユーラシア各地の要素を加えて形成された融合文明であることを理解し，その学問と文化活動の基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

	ヨーロッパ世界の形成と発展	・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ 	 ○	a:フランク王国とローマ教皇の提携の意義，ノルマン人などの諸民族進入,ビザンツ帝国の特色とスラヴ人など周辺民族の活動の影響について，関心を持って学習しようとし、中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割について関心を持って学習しようとしている。 b:地中海世界の解体をゲルマン人の移動やイスラーム勢力の進出と関連付けて考察し，文章にまとめる。 ・封建社会の仕組みとローマ教皇権の発展・ビザンツ帝国とスラヴ人との関係を多角的に考察し，文章にまとめる。 ・修道院運動やイスラーム文明の影響など，中世ヨーロッパ文化を多面的に考察し，文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている地勢図や領域図，ゲルマン民族の移動図,十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大，中世都市と交通路といった地図などを適切に活用している。 ・荘園の構造などの概念図や図版・写真・資料を適切に活用している。 ・教科書に掲載されているビザンツ帝国や東ヨーロッパ世界の領域図，特色ある聖堂や聖母子のイコン，プラハなど東欧の景観といった図版を適切に活用している。 d:ゲルマン人の移動やノルマン人などの諸民族の進入による影響，フランク王国とローマ教皇の提携の意義など，西ヨーロッパ世界の形成と発展に関する基本的な知識を身につけている。また、ビザンツ帝国やスラヴ人諸国家によって形成された，東ヨーロッパのギリシア的世界の多様性に関して，基本的な知識を身につけている。 修道院の果たした役割，12 世紀ルネサンスや美術・文学など，中世文化に関する基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国	○ ○	○ ○	 ○	 ○	a:トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界史的影響について関心を持って学習しようとしている。中国周辺諸国の変化，契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流，宋代の産業や文化の発展について関心を持って学習しようとしている。モンゴル帝国が掌握した内陸アジア全体に及ぶネットワークとその影響について，関心を持って学習しようとしている。 b:トルコ民族の内陸アジアにおける台頭をトルキスタンの成立と関連付けて考察し，文章にまとめる。中国周辺諸国の独自の文化形成，遊牧諸国家の支配体制の特徴，宋の統治体制とその社会や文化の特色を，東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察し，文章にまとめる。モンゴル帝国が内陸アジア諸都市の，また元朝が海域のネットワークを支配下に置いた意味を，社会経済的な視点から考察し，文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図，ウイグルの仏教壁画などの図版を適切に活用している。教科書に掲載されている通行証に記された諸民族の文字や，清明上河図など宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版などを適切に活用している。教科書に掲載されているモンゴル帝国の領域図や帝室の系図・ワールシュタットの戦いといった図版・写真などを適切に活用している。 d:遊牧国家ウイグルの崩壊以降，トルコ系遊牧民が広く内陸アジアに定住し，イスラーム化していったことに関する基本的な知識を身につけている。 ・日本や高麗といった東アジア周辺諸国の政治権力の交替や，文化の確立に関する基本的な知識を身につけている。 ・契丹や女真の二重支配体制の仕組み，宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色に関して，基本的な知識を身につけている。 ・モンゴル帝国のユーラシアと元朝の東アジア支配の過程と，その支配の特色,かれらが築き上げたネットワークと，14 世紀以降，その再編・解体がもたらした諸地域世界への影響に関する基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

3学期	アジア諸地域の繁栄	・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸地域 ・トルコ・イラン世界の展開 ・ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	○	○ ○	○ ○ ○	○ ○	a:明・清代の経済的繁栄と銀経済の進展，科学技術への関心を特色とする文化活動，中国とチベットや琉球・日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向に関して，関心を持って学習しようとしている。また、オスマン帝国，ティムール朝，サファヴィー朝の領域拡大の過程や興隆について，また、インドにおけるイスラーム支配とヒンドゥー教徒との融和や対立,イスラームの東南アジアへの浸透やヨーロッパ勢力の進出について，関心を持って学習しようとしている。 b:明・清朝が近隣諸国との間に築きあげた冊封＝朝貢体制の変化を，日本や女真、周辺諸地域の関係や東南アジアの状況やヨーロッパ勢力などの動向を中心とした東アジアの状況と関連付けて考察し，文章にまとめる。また、中央アジア，西アジアに成立した広大な版図を持つ各イスラーム諸王朝,ムガル帝国の支配の特色や政策の変化を考察し，表などにまとめる。また、ポルトガルやスペインの進出と東南アジア交易世界の発展を，多面的に考察し，文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている明の領域図や周辺諸地域図,倭寇や「坤輿万国全図」といった図版や清帝国の領域図や周辺諸地域図，チベットや琉球の図版などを適切に活用している。 教科書に掲載されているオスマン帝国の最大領域を示す地図や，イェニチェリ,ムガル帝国の領域を示す地図，タージ＝マハルの写真などの図版を適切に活用している。 d: 明朝の発展による朝貢世界の確立と日本や女真を中心とした東アジアの状況の変化に関する基本的な知識を身につけている。清朝の中国統治や宣教師によってもたらされた文化の特色，その隣接諸地域の動向に関する基本的な知識を身につけている。また、オスマン帝国などのイスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制，ヨーロッパ世界との関わり，異民族統治の特色,ムガル帝国の統治システムとイスラーム教徒とヒンドゥー教徒融合の試み，インド地方政権の台頭や東南アジア交易世界の発展に関する基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

3学期	近世ヨーロッパ世界の形成	・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○	○ ○	○ ○	○	a: ・新航路の開拓事業や征服活動と，それに伴うアメリカ先住民社会の変容や商業革命に関して，意欲的に学習しようとしている。 ・ルネサンスと宗教改革について関心を高め，その歴史的背景について考察し，その結果を適切に表現する。 ・ヨーロッパ諸国がたがいに独立した主権国家として競合しながら国際秩序を形成していった過程を，関心を持って学習しようとしている。 b: ルネサンスを中世世界の継承・発展という側面と，近現代の出発点という両面から多角的に考察し，大航海時代を世界の一体化や資本主義経済発達の基盤と関連付けて考察し，文章にまとめる。 ・宗教改革やカトリック教会の革新を，世俗の政治秩序の変化と関連付けて考察し，文章にまとめる。 ・オランダ・フランス・イギリスといったヨーロッパ諸国の勢力交替を，「17 世紀の危機」の時代を境界として考察し，文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているヨーロッパ人の航路と探検図，世界地図やアステカ征服の図版，ラス＝カサスの著作などの資料を適切に活用している。 ・教科書に掲載されている作品群やルネサンス期の文化と美術の図版などを適切に活用している。 ・教科書に掲載されている新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論題」などの資料，図版を適切に活用している。 ・教科書に掲載されているヨーロッパ主権国家の領域地図や内乱，戦闘の図版を適切に活用している。 d: ルネサンスの意義やその具体的な文芸と美術，大航海時代の探検・征服事業の過程とアメリカ先住民社会の変容に関する基本的な知識を身につけている。 ・ルター，カルヴァンによる宗教改革の拡大，イギリスの改革，対抗宗教改革に関する基本的な知識を身につけている。 ・15 世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していった過程に関する基本的な知識を身につけている。 ・三十年戦争に代表される，17 世紀前半の「危機の時代」におけるヨーロッパ諸国の動向に関して，基本的な知識を身につけている。	ワークシート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。